

会 議 議 事 録

1 会議名	平成29年度 第2回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成29年12月4日（月曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	さいわいプラザ 3階 中ホール
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>高野礼子委員長、桃生鎮雄委員、高橋呈子委員、榎園早苗委員、片桐直子委員、成田涼委員、田邊香織委員、佐藤紫野委員、横澤勝之委員、諏方浩二委員、木村春美委員、ジョーンズ文穂委員、内藤純子委員、長谷川直子委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳准教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多部長 政策企画課：茂田井課長 福祉課：牛木課長補佐 生活支援課：藤田課長 学務課：小林主査 学校教育課：竹内課長 子ども家庭課：大矢課長、神保課長補佐、鷲頭係長、関本主査、小林主査 子ども家庭センター：木村係長、郷係長 柿が丘学園：高森園長 保育課：大野課長、遠藤課長補佐、石田総括副主幹、高杉係長、小野塚係長、目黒係長 青少年育成課：小林課長補佐 双葉寮：林寮長</p>
5 欠席者名	児玉優子副委員長、池田浩委員、櫻井真理委員、布川清行委員、加藤秋子委員、河野瑞枝委員、諏方浩二委員
6 議題	<p>(1) 長岡市の療育・相談体制について</p> <p>(2) 子どもの貧困対策について</p> <p>(3) 民営化した保育園のフォローアップ等について</p> <p>(4) アドバイザーからのまとめ</p>

7 会議結果の概要	<p>(1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1、2に基づき説明した。 ・委員から資料No.1、2の内容について意見を述べてもらった。 <p>(2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.3に基づき説明した。 ・委員から資料No.3の内容について意見を述べてもらった。 <p>(3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.4に基づき説明した。 ・委員から資料No.4の内容について意見を述べてもらった。 <p>(4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーから議題(1)～(3)の内容について御意見、アドバイスをいただいた。
8 会議内容	
<p>1. あいさつ (事務局)</p> <p>2. 議事 (1) 長岡市の療育・相談体制について (事務局)</p> <p>資料No.1「長岡市の療育・相談体制の検討ワーキング部会報告」に基づき説明 (委員長)</p> <p>ワーキング部会に参加された委員から、参加されての御感想や御意見などがありましたらお願いします。</p> <p>(委員)</p> <p>部会に参加させていただき、いろいろな方の御意見をお聞きし、発達ガイドブックダイジェスト版、チラシの作成、発行をお願いさせていただきました。それに関しまして、現場の声として大胆な発言をさせていただき、文字より絵が多い方がお母さんも見やすいのではないかと、いろいろな意見を出させていただきましたが、本当に長岡市の方で一生懸命やっていた事に感謝したいという風を感じております。</p> <p>(委員)</p> <p>今回まずこのように、特別な支援を必要とする子どもの事について話し合う場を設けていただいたという事が、すごく進んだ第一歩だったなと思っています。特に、出生時や障害がわかった時に、保護者が受け入れるまでの不安な時期の支援の必要性を認識いただけたという事に、とても意味があったのではないかとと思っています。私たち保護者も、周りの方から、支えるから大丈夫だよと言っていたきたい、安心したいというのが一番なのかなと思うのですが、それを皆さんに考えていただけたのがありがたかったです。前回の2回目のワーキングでも少しお話させていただきましたが、今回の療育相談のワーキングと、もう一つの貧困のワーキングが非常に根っこが繋がっており、障害児を持つとどうしても離婚率が一般家庭より高くなり、ひとり親で育</p>	

てていらっしゃる方も多く、そうすると家計も全部自分で背負わなければならないという中で育てていらっしゃる方も多いため、両方の支援が必要であるという事と、離婚をするという事はそれだけパートナーとの意見を一致させるという事が難しかったり、子育てに困難度があるという事なので、それについてはぜひ今後も支援を考えていただければありがたいと思っています。

(委員)

相談の窓口について、よりわかりやすく、そしてハードルを下げ聞きやすいようなかたちに、伝え方、体制の取り組み方を変えていった方がいいのではないかと意見が大変印象的でした。それから、関係機関との連携、なるべく顔が見える関係で、研修会などの取り組みも大変いいのではないかと思います。各施設の連携というのは、顔の見える関係が深まってくると、より情報の伝達がスムーズになるのではないかと思います。最後に、今、委員からお話がありました、心身にハンデをかかえている児童の保育について、医療行為、医療ケアが必要な園児というのは、どうしても幼稚園・保育園の今の枠組みの中では保育がどうしてもできないという事で、大変な思いをされている方が多いのではないかと思います。幼稚園・保育園で預けができないという事で、お母さんも働けなくなる事になりますから、後程話に出てくる貧困に繋がりやすい要因のひとつになるのではないかと思いますので、このあたりのところは新しい課題だなという事で大変勉強になりました。

(委員長)

「長岡市の療育」に関連して、「障害児福祉計画」について、事務局は説明願います。

(事務局)

資料No.2「長岡市障害者基本計画・障害福祉計画・障害児福祉計画 施策の体系図」に基づき説明

(委員長)

ワーキング部会の報告も含めて、今までの説明で、御質問、御意見がありましたらお願いします。

(委員)

療育・相談体制の検討ワーキング部会のお話を聞かせていただきましてありがとうございます。目的のところ、特に今「就学前」という事で、当事者のニーズに沿った支援づくりという事でお話を伺いましたが、意外と就学してからも、発達のところ、他の児童と差が出てくる場合があります。今まで自分の子どものことをそういう風に見ていなかったため、自分の子どもが発達障害を抱えていることがわかり、奈落の底に突き落とされた気持ちだというお話を伺ったことがあるご家族もいらっしゃいます。ですので、発達障害が疑われるようなお子さんがいらっしゃるようでしたら、ぜひ就学前から、また就学してからも関係機関で連絡をとりながら、その子をサポートしていただけたらと思います。発達障害が疑われるが明らかでないお子さんが、環境の変化、進級などで、突然障害が明らかになるお子さんもいらっしゃいますので、そ

ういったところでお子さんもお母さんも家族も周りのお友達も、大変な思いをされている事が多いので、やはり教育機関と連携して発達支援の方に取り組んでいただけたらと思います。

(委員)

私は子どもの虐待防止の方に属しておりますが、やはり関係機関の連携が重要だと日頃から思っております。今回そういう風に話が十分進んできたのは、すごく子どもにとっていい事ではないかと感じております。それから今私どもは、各保育園や幼稚園に出前講座に行っていますが、虐待とまではいかななくても、どうやって子どもと接したらいいか悩んでいらっしゃる若いお母さん方が多いというのをとても実感しており、ちょっとした事で子どもとのコミュニケーションがとりやすくなるとか、そういう方法がたくさんあるという事を早い段階で知っていただきたいなと思います。悩みがピークに達する前にちょっとしたヒントで、暴力を振るわなくて、もっと子どもに愛情をストレートに、コミュニケーションをはかれる術があるということも知っていただくために、相談窓口のハードルを下げるという事もひとつではないかと思えます。

(委員長)

私の地区でも、母子保健推進員が虐待防止の話をしてくださいますが、話を聞いたお母さん方が、「本当に良かった、こんなことを今まで気が付かなかった」というアンケート内容を見させていただき、このような取り組みがどんどん広がればいいなと感じました。

3. 議事 (2) 子どもの貧困対策について

(事務局)

資料No.3「子どもの貧困対策についての検討ワーキング部会の報告」に基づき説明

(委員長)

ワーキング部会に参加された委員から、参加されての御感想や御意見などがありましたらお願いします。

(委員)

貴重なワーキング部会に参加させていただき、学校現場の直接的な状況などもお聞きしました。先ほど委員が言われたように、障害児のいる家庭が貧困に陥りやすいという点や、子どもの貧困というのは氷山の一角であり、そこに問題が現れているのですが、その問題が現れる根っこの方には、親も含めて社会の中にも様々な問題があり、その結果の現れとして子どもの貧困があるのだらうと思います。一人でも多くの子どもを救うには、様々な問題が絡みあっている中で、行政であれば行政の中でコーディネートする部署が重要だらうと思いますし、地域の中でも地域全体で包み込んで解決に向かっていくために地域の力をつけていくことが重要だと思えました。

(委員)

自分自身が貧しい状態なのはなるべく人に見せたくないものなので、なかなか保育園の現場でも貧困というものは見出しにくいものがあります。制度として貧困を解決していくという部分もちろん大事なのですが、そうはいつでも根本的に解決するのは難しいところもあるのではないかと思います。その中でその子にとって、生きていく事に対して、自信とか自己肯定感とか、生まれてきて良かったと思わせるような、生きていく実感をどうやって構築していくかが大事なのではないかと思います。

(委員長)

調査項目として「子ども食堂」についてあげられていましたが、長岡市で第1号の「子ども食堂」であります「新町みんな食堂」について、最近の状況などを、世話人として関わっていらっしゃる委員、少し御報告いただけますでしょうか。

(委員)

去年の冬、子ども食堂をやろうと思うけど協力してくれないかと、「新町みんな食堂」の代表を務めております、蔵王保育園長から相談がありました。神社の境内に集会所があるのでその場所を貸して、毎月第三金曜日の夜にやることになりました。金曜日の夜は次の日土日で休みになりますので、連れてくるお母さんも楽になるんじゃないかということでそのようにしています。

難しいところは、参加者が毎回募れるかどうかと、食事を作るボランティアを確保する事と、食材が毎回その分確保できるかということだと思っています。そういったことに代表が長けているので、その辺はありがたいと思っています。食材の確保については、フードバンクさんからの支援がありましたし、寄附が集まった場合は、ある程度その中で賄えています。参加者とボランティアのバランスとといいますか、参加する人だけが突出して来ても作る方が間に合わなかったり、また逆だとやりがいになかったりいたしますので、そここのところのリズムを掴むまで最初は大変だったかなと思っています。4月から始めて、8回を迎えた訳ですが、多少の増減はありますが毎回大体50人程の参加があり、最近は少し余裕ができており、次は12月ということで何かクリスマスのようなことをやってみようというような取り組みをしています。貧困対策というのを前に出しすぎると、レッテル貼りとかイメージみたいなものがあるので、あまりそこは出さずに、地域のお年寄りも招いて、基本的には誰に来てもらってもいい、地域のコミュニティ再生という事を表の目的にしていながら、裏の方では困っている子どもがいないかどうか見ている中で、今のところ重大なケースはありませんが、長く続けていってそういったところの支援ができればいいなと思っています。少しずつ慣れていく中で、食べた後、せっかくみんな集まってくるので、金銭的な面でのハンデがあるようなお子さんは経験不足に陥ることもありますので、そのあと勉強を教えるとか、いろいろなトークをしてみるとか、そういった場所、機会を作っていけたらいいなと思っています。

(委員長)

「新町みんな食堂」に関わっているボランティアの方は大体何名くらいいらっしゃ

いますか。

(委員)

常時10人程ですが、厨房施設が整っているのです、人数がいると非常に助かるかなと思っております。大体20人ぐらいの人がいて、全員が毎月必ず参加できる訳ではないので、都合が悪いときはしょうがないよという事で、わりと気軽に参加できるような雰囲気作りを大事にしており、半分来ていただければ充分活動できます。

(委員長)

代表の方がとてもエネルギッシュな方で、このお話を聞いたとき、自分だったらできるかなと考えたのですが、やはりスタートすればできるのかもしれませんが、自分に立ち上げるエネルギーがあるかなと思いました。そのあと、「银河食堂」が宮内地区にできたということで驚きました。「银河食堂」について、事務局は少しお話しいただけますでしょうか。

(事務局)

※チラシ「银河食堂」「らいおんず お茶の間食堂」について説明

去る6月に、子どもの孤食を何とかするために、子ども食堂に関心のある方たちに集まっていたいただき情報交換会を開催しました。その際、「新町みんな食堂」の代表の方に、経緯や苦労話をお聞きした中で、宮内に「银河食堂」が立ち上がり、嬉しく思います。また、情報交換会の開催が報道されたことで、お手伝いしたいとか、食材を寄付したいというご連絡をいくつかいただき、主催者につなげさせていただきました。今後も子どもが繋ぐ役割を担いたいと考えております。

(委員長)

報道の力は大きいですね。では、今の報告も含め、議題2の「子どもの貧困対策について」御質問、御意見等がありましたらお願いします。

(委員)

子どもの貧困について、解決策として、子どもたちに自己肯定感や自信を持たせることは小さな進歩であるということや、生涯にわたり非常に大切なこととありましたが、お母さんが子どもにどう接すればいいかわからないと先程お話がありまして、子どもたちに自己肯定感や自信を持たせる前に、親御さんが自己肯定感や自信を持ってないと自分の子どもに対してもそういった事ができないと思います。なのでもっと親御さんの方にも目を向けていただいて、親御さんにも支援をしていけたらいいのかなと思いました。私も子どもが小さい時に、情報がたくさんある中で、自分の子育てが本当にこれでいいのかな、とすごく悩んで辛かった時期がありましたが、周りの人から、頑張ってるね、それでいいんだよ、少しくらい間違ってもいいんだよと言ってもらう場がありました。それで少し気持ちが楽になった経験がありましたので、定期健診などの時にそういったような言葉掛けを大事にしてあげると、お母さん達ももっと気持ちが楽に子育てできるのではないかと思います。

子ども食堂に関する事ですが、先日SNSからの犯罪に関わって、すごくかわいそう

な事件がありました。都会の話ではなく、地方の子たちがわざわざ関東まで行って事件に巻き込まれてしまっていて、地方だから都会だからというのが関係ない今の時代の中で、若い中学生高校生の多感な人たちが、貧困によって寂しかったり孤独感を感じていて、もっと誰かと繋がってればあんな事件にならなかったのにとすごく感じたので、中学生や高校生が、食事の支援だけではなく、コミュニケーションのとれる場所、たまれる場所、そこに行けば誰かがいて誰かとお話ができるというような所があるといいのかなという風に感じました。

(委員)

子どもの貧困対策ワーキング部会で、小池アドバイザーの講義を聞かせていただきました。私自身、恵まれているんだなと感じた事と、恵まれていない方も実際いらっしゃるんだなという事を学ばせてもらいました。その中で、私自身何かできることがないかと考えていますが、答えが出ないというふうに感じています。グループワークを行った中で、課題、解決策がこういった形で表面化して行って、これからまた具体的な話にもっていかれると思いますが、こういった動きが長岡市の方であるというのが本当に素晴らしい事だなという風に感じております。私が子育てをされていてすごく思うのですが、まず私自身が貧困の人に対して、差別的な目で見ない、何か事情があってそういう状況にいるんだという事を、常日頃意識していかないといけないなという風に感じています。障害のある方にも繋がっていくと思うんですけども、私の子どもを見ていて、素晴らしいなと思うのが、分け隔てなく一緒に遊んだり、排除しないといいますか、彼の対応を見ていると、とても感心するときがあります。先程意見がありました。保育園で障害のある子を見きれないというか、一緒に保育ができない現状というのもあるかとは思いますが、差別しないで共に生きる場があると、障害のない私たち側が学べるものがたくさんあるんじゃないかなと感じています。社会的にそれを実際広げていくのは難しいことかもしれませんが、そういうものが広がっていけばいいなと個人的には思います。

今回お話のあった3つの子ども食堂について、各地域でみんなで食事を楽しみましょう、コミュニケーションをとりましょうといった形で、それぞれが活動しているのは本当に素晴らしいなと感じています。報道の力はすごいと先程お話を聞かせてもらって、新聞に載ったそれを見て、私も参加したい、協力したい、食事を提供したいと思っている方が、この長岡市にいらっしゃるというのが素晴らしいなと思いますし、報道があることで、長岡市に問い合わせが来て、長岡市が情報を提供するという繋がりがすごく大事だなと思いますし、連携プレーがスムーズに広がっていけばいろんなことがつながって、解決していけるのではないかと感じました。

(委員)

貧困の問題と、各地域の食堂という部分で、立ち上がりも大事だなと思いましたが、継続していくという部分がどの事業でも大事になっていくと思っていて、ボランティアの皆さんに来ていただくのもある意味奇跡というか、みなさんの気持ちで来てもら

っているので、必ずしも確約があるものではないなという風に思いました。また、居場所みたいなものが大事だということを開かせてもらって思ったのですが、そういった中で事業をする上でお金とマンパワーが絶対必要になってくるので、立ち上げだけを支援するのではなくて、マンパワーとかお金をどういう風に運営していく、そういう部分を支援していくのも大事なのではないかと思います。ライオンズさんのお茶の間食堂は長岡長生ライオンズクラブさんがされるということなんですけども、経済界の方からもこういった団体の方はどこと繋がっているかとか、どこに支援したらいいかわからないというお話もお伺いしています。以前「ながおか・若者会議」の「子育てチーム」のメンバーと東京の世田谷に行ったときに、困っている人ほど寄付が集まりやすいという話も聞きまして、それを利用するという訳ではないけれど、そういった経済界の方々とも繋がるというか、それが行政が働きかけるのか、担当の方が働きかけるのか、そういった働きかけとか繋がりを作っていくのも大事なんじゃないかという風に思いました。

(委員長)

委員からも継続の難しさをお話いただきましたけども、最初に立ち上げれば、どうにか繋がっていくのかなという感じはしますね。

(委員)

なるべく続けられるように、今いるボランティアの人が継続的に参加してくれるように、雰囲気よく言葉がけをしながら、まずは楽しくやっていくのが大事なんじゃないかと思います。そういう風にやっていけば、また誰か知り合いを紹介して連れてきてあげるといふ風な話になると考えています。必ず第三金曜日空けて来てねという負担になりますので、来れる時に来れる人が来て、たまに遊びに来てという感じで、これぐらいの負担であればまた手伝いに来てもいいかなというような気持ちで、今やっています。似た者同士が集まるという訳ではないですが、ボランティアが好きなお知り合いはやはりボランティアが好きだったりしますし、銀河食堂さんとかいろんなところで考えをお持ちの方もいらっしゃると思いますので、じゃあそっちにも手伝いに行こうとか、運営の勉強をしに手伝いに来てくれたりだとか、そういう体験もありますので、マンネリというかそういう難しさの危機感を持ちながら、そういうのもわかかった上でなるべく楽しそうに雰囲気よくしながらやっていくのが大事になっていくのではないかと思います。

4. 議事 (3) 民営化した保育園のフォローアップ等について

(事務局)

資料No.4「民営化した保育園のフォローアップ等の検討ワーキング部会報告書」について事務局から説明

(委員長)

ワーキング部会に参加された委員から、参加されての御感想や御意見などがありま

したらお願いします。

(委員)

民営化した保育園のフォローアップ等の検討ワーキング部会に参加させていただきまして、アンケートの調査方法や、検討の方法がとても丁寧に実施されていたなという風に思います。私自身も、保護者の気持ちとしては、こういった市の方のフォローアップがしっかりしているということが安心に繋がるなど実感ももちました。また、メリットデメリットがあると思うんですけども、一番期待したい所が、軽減、削減されるという事は、そのまままた子育て環境の社会的な課題の解決がいろいろ待っている中で、そういったところに働きかけるということは、市民として、また子育てしやすい長岡に繋がるんじゃないかなと感じております。

(委員)

民営化のワーキング部会に参加させていただきました。アンケート調査の時から関わらせていただいて、細かな所にも意見させていただき、いろいろ反映していただいたのが非常にありがたかったです。保護者としてアンケート結果を見させていただいた時に、7割ほどの保護者の方が、今の現状で満足しているという結果が出まして、すごく安心したという次第です。私の周りの保護者の方に聞いてみると、公立と私立の違いがわからず、やはりもとにあるのは子どもへのより良い保育が一番という事で、あまり違いは出てこなかったのですが、公立から民営化された時に、支援が途切れたりしないように、市からのアフターフォローが繋がっていくというのは、保護者としてとてもありがたい環境だなという印象を受けました。この時のワーキング部会と前後して、子育て支援員研修を受けたんですが、その時にちょうどこの民営化した保育園の職員の方と一緒にいる機会があり、前年度との保育方針の違い、給食の内容など、小さなことも保護者の方はよく見ていて、職員の方に、ここは違いますよね、という風に質問されたそうです。そういった時に、ちゃんとした説明があったりフォローがあったりすると、保護者の方も安心して、そこで信頼関係ができていくというような話も聞きましたので、そういうところでコミュニケーションをとっていくのが大事なんだなという風に感じました。こちらの結果がホームページに出ていますので、これから民営化される保育園の地域の方も安心して迎えられるのではないかと感じています。

(委員長)

ワーキング部会の報告も含めて、今までの説明で、御質問、御意見がありましたらお願いします。

(委員)

事前に資料を頂いて、情報共有とか連携、コミュニケーションなどに注目して読んでいました。保育園の民営化についても、保護者と園とのコミュニケーション不足が課題とありましたが、本当にその通りだなと思います。もう一つ気になったのが、民営化されると長岡市の負担が8,000万円軽減されるというところがすごく大きい

など思いました。これは長岡市としてはいい事だと思うのですが、民営化した保育園の運営側として考えたら、保育料は公立も私立も変わらないので、お預かりするお子さんの人数が変わらない限り、収入は変わらないですね。という事は、保育園を運営するにあたっての経費は、公立も私立もあまり変わらないとっていて、長岡市としてはいいけれど、民営化された保育園側はその8,000万円をどうやって捻出してるのかなと疑問に感じました。保育士の給料が公立と私立では違うと以前どこかでお聞きしたんですが、保育士の先生から民営化を見た場合はどうなんだろうと少し気になりました。

(事務局)

保育園は、保育料と公費によって運営されています。公立保育園の場合の公費はすべて市の負担となりますが、私立の場合国、県、市で公費を分担することになります。よって、市の負担は減りますが、その分法人の負担が増えるということではありません。

この8,000万円というのは、国や県の公費負担が入る分減額となる市の負担分ということでもあります。

5. 議事 (4) アドバイザーからのまとめ

(アドバイザー)

今年度、長岡市の皆さんが積極的に子どもの問題について、会議やワーキングを通して検討していただけることは素晴らしいなと思いながら参加させていただいておりました。

まず一点目の、長岡市の療育・相談体制についてですが、要点を絞られながら、今の課題について向き合ってこられたというのがすごくよくわかりました。就学前のお子さん達に適切な支援を提供していく事が、その後の子どもの育ちにも大きく影響してくるというのは現場の方たちも特に感じておられることではないかなと思います。その中で保護者の方たちが、どこに相談していいかわからない、自分の悩みを人に打ち明けていいのかどうかというところからわからない、こんな事を言ったらどう思われるか、こんな風に言ってこの人は答えてくれるのかとか、いろいろなところから保護者の方たちは悩んでおられます。その前段階での、悩みをキャッチし、繋がっていくところ土台を作っていくかということは、次年度の反映したいというところで総合的な相談の設置というところにも繋げておられましたけども、ぜひハードルの低い相談のあり方という事を検討して頂ければと思います。これもぜひ検討していただきたいのが、相談の場を設定するのか、今ある所でそういうアンテナを高くしていくのか、あるいは今だと電話やメールやLINEだったり、そういうものも使う可能性があるのかどうかです。新潟市で実施されている「キラキラ子育て相談」という、子育ての事なら何でもOKの電話相談があり、年間かなりの数の相談で、子どもの年齢幅もすごく幅広く、30代40代の子どもの相談もあるそうですが、子どもだったらすべて

OKという形で、離乳食の作り方や発達の事などたくさん相談が来ると聞いています。長岡市には子育ての駅がありますので、そういう場所をうまく使っていくというのも一つの方法かなとも思いますし、電話とかインターネットとか、今までされてないところでの方法も考えていったらいいのではないかなと思います。ぜひ幅広く、どんな方法がよりハードルを下げるのかというところを考えていただきたいと思います。もう一点は、繋がったあと、相談した人がつまづかない体制作りだとも思います。「繋がる支援、途切れない支援」というのがまさしくそうなのかなと思いますが、せっかく繋がった人たちが、この支援の中に自分がいていいんだと思うことができるような関係、体制作り、何度もこの中でも出てきておりましたけども、それこそ関係機関、利用者の方たちであったり、現場の皆さんたちが、どう連携していけるか、情報共有していけるかというのが一つの検討になってくるかとは思いますが、内容が内容ですので、なんでもかんでも情報共有かといういろいろなハードルがあると思いますが、ただ、個人情報だから出さないということが逆に、特に地域なんかだと、お互いの子育て家庭が見えにくかったりということに繋がってきますので、ぜひ自治体のなかで検討されて、そこをどういう風にすれば、守秘義務は守りながら連携ができるかというのでも検討されていかれるといいのかなと思いました。一人で悩んでいられる保護者の方たちもたくさんおられると思いますので、そこを考えていただければいいのかなと思います。

二番目の子どもの貧困対策との絡みのところでもありましたが、今の日本の社会は共働きで大体成り立っている子育て家庭が、お子さんの障害があると、結局どちらかが働かないで子どもを見なければいけないことによる、片働きになり経済的に厳しい状況になるというのがおきているんだなと感じていたところでした。この問題を、どこが主管で解決するのが課題なのかなと感じました。障害のあるお子さんたちの保育の保障というところからやっていくべきなのか、貧困の方の観点からやっていくのかというところで、どちらかだけではなくて一緒に一体になって解決に向けて進めていただければいいのかなと思います。親自身の、障害、疾病も貧困の理由としては上がってきますが、お子さんの障害、疾病が結果として今の社会の中では非常に厳しい経済状況に陥るといいう事が生じているという事を改めて感じさせていただきました。

子どもの貧困対策について、貧困の解決について、いろんな観点があるなと思いつつながら聞かせていただきましたが、講演のときにお話しさせていただいた阿部彩先生は、子どもの貧困より女性の貧困の方が問題だとおっしゃっています。子どもの貧困の背景にあるのは、性別による社会の中での役割とか、意識の差だったりとか、あるいは家族の在り方というところは考えていかなきゃならないだろうという観点が出てきています。なので、そういった観点を見ながらこの問題に取り組んでいくと同時に、もともとの社会的な問題もある訳で、女性が一人で働いて子育てができない状況というものもあるんですが、それはここでは解決できることではなく、大きな社会保障と

いう問題のところでやっていかなければならない問題だなと思います。ただ、子どもたちは今育っていきますし、保護者も今子育てしていますので、今何とかしなければというのがあると思いますので、やはりそういうところにこのワーキングだったり子ども・子育て会議が中心で考えていければと考えております。先程委員が自己肯定感の話をしてくださって、大事な視点だなと思ったんですけども、委員は頑張ってるねと言ってもらえたんですね。いわゆる経済的に困窮状況のお母さんたちはその言葉をかけてもらえる機会すらないというのが一番大きいんだろうなと思います。どうやったら言葉をかけてもらえる場所を作っていく事ができるかというの大きな課題だなと思います。こんな子育てじゃなくてもっと子どもと向き合いたいと思っているんだけど、それができない人たちに、一生懸命頑張っているんだよということを、それこそ社会だったり地域だったり発信していく場というのがすごく大事になってくるかなと思います。そういう場としてぜひ子ども食堂も使っていただきたいです。子どもに食を提供する、子ども自身の居場所である、私は子ども食堂は子どもの居場所であってほしいと思ってますし、地域の中に子ども食堂ができてくるということは、地域に子どもがいていいよという場所が増えてくるということなので、これはすごく大事にしていただきたいと思うのと同時に、一緒におられる保護者の方に、頑張ってるね、大丈夫だよと言葉をなげかけてくださる場でもあってほしいなと思います。そして、マンネリ化してもいいと私は思います。坦々と、いつもそこにある場所、いつ行っても変わらない場所、いつ行っても誰かが迎えてくれる場所、これが地域の中になさすぎるので、そういう場所として継続してくれることを願っています。行政の方が一生懸命サポートしてくださっているのありがたいと思うのと、行政の方が中核でやっていくのか、あるいは地域にお願いして運営されていくのか、そこでぜひ企業をどうやって巻き込んでいくかというものを考えていただきたいなと思います。この問題を行政だけで解決するのではないと思います。企業も地域もみんなが向き合っていかなければいけないと思いますので、そういうところで繋がってほしいなと思います。自分に何ができるか、というのはここにいるみんなが考えなければならぬ、一個人としてと、一社会人として、自分に何ができるかという意識をもてるかもてないかで全然変わってくると思います。これは私自身も含めて、自分が何ができるか考えていきたいと思ひますし、みなさんもぜひ考えていただき、それを広めていくのがまず大事かなと思います。

三点目の民営化についてですが、非常に丁寧に民営化のフォローアップをされたのは、すごく評価すべき点だなと思いました。実際これをされたから、民営化するときの課題というんでしょうか、概ね良好だったというのは、お願いする法人さんをきちんと選定されて、その中でお願いされたからだとは思いますが、そして長岡市の法人さんがきちんとされた法人さん達がたくさんあったというのが何よりの証拠だとは思いますが、それでもやはり少しずついろんなことがあったということ、今回きちんとフォローされた、そしてこれを次の民営化に繋げていけるようにされたとい

うのは、すごく大きな事だなど、すごく丁寧な事だなどという風に感じております。改めて、ワーキングに参加させていただきましたが、出来上がった保育園を引き受ける法人さんはやはり大変だと思います。その大変さを引き受けて下さったということに対する感謝と、全部お任せではなく、行政の皆さんだからできることをされたという事はすごく大きな事だなどと思います。私もいろいろ見てきたのですが、大体苦情の方が多いのですが、長岡市全体の保育を見ていったときに、それが子どもたちにとってあるいは保護者にとってプラスになるんだという観点から、そしてプラスにできるだけ繋げていきたいという形の民営化ということ、これからも進めていただければと思います。

6. あいさつ
(事務局)

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

㊞

7. 会議資料 別添のとおり